



北海道本部創立 50 周年ご挨拶

公益社団法人日本技術士会北海道本部

本部長 能 登 繁 幸

公益社団法人日本技術士会北海道本部は、このたび、創立 50 周年を迎えることとなりました。これもひとえに日本技術士会北海道本部の歴代の役員、会員の皆様のご努力と、協賛企業をはじめとする関係諸団体の皆様からの温かいご指導・ご支援のたまものであり、心から御礼を申し上げる次第であります。

北海道本部の設立当初を顧みますと、昭和 40 年 11 月にまずは 20 名の発起人による「日本技術士会北海道支部・北海道技術士センター」の設立発起人会が立ち上がり、昭和 41 年 1 月に設立総会が開催され、昭和 41 年 5 月、日本技術士会の総会において、近畿、中部、中国・四国、九州に次いで全国 5 番目の支部として開設が認められた次第です。設立時に 20 名ほどの会員数でありましたが、30 周年を迎えた頃には会員数が 180 名（準会員を含む）となり、現在は正会員 960 名、準会員 150 名の大所帯となっております。

支部設立後の最初の重要課題は札幌を技術士受験地として認めてもらうことでしたが、支部長他役員の懸命の努力のおかげで、支部設立の翌年、昭和 42 年には札幌が受験地に加えられております。昭和 52 年には第 4 回技術士全国大会が札幌で開催され、以降現在まで 5 回の全国大会が札幌で開催されていますが、札幌から始まったという行事がいくつかあります。昭和 52 年の第 4 回から夫人同伴、平成 16 年の第 31 回からウエルカムパーティ、平成 25 年の第 40 回から技術者倫理ワークショップが始まっており、このほか札幌大会がきっかけとなって全国防災連絡会議の設立、青年技術士交流実行委員会の全国的な輪の形成などが行われました。これらは北海道特有の「フロンティア精神の発揚」なのかも知れません。

支部設立からしばらくの間は主に会員の資質の向上と会員相互の交流という内向きの活動が中心でしたが、創立 30 周年を迎えた頃から徐々に外向きの活動が目立つようになりました。阪神淡路大震災をきっかけにして防災研究会が結成され、その後地域産業、北方海域技術、リージョナルステートといった研究会が相次いで発足し、技術士の社会貢献を意識した活動が活発となっていきました。さらに近年に至って北海道スタンダード、エゾシカ、食産業、エンジョイ・サイエンスといった研究委員会も発足し、新たに倫理委員会も設けられ、活動の輪が広がって来ています。また、地方に在住する技術士の交流を促進するため、道央、道南、道東、道北、オホーツク地域において技術士委員会も設けられ、それぞれの地域における積極的な技術士活動が行われるようになってきました。このほか弁護士等との異業種交流も行われました。ごく最近に至っては防災市民セミナーの開催、小中学校を対象とした理科支援教育、高等教育機関への倫理教育の支援のほか、研究機関や高等専門学校と技術協力協定を結び、科学技術の振興や人材育成に協力する体制も整えているところです。

これらの委員会、研究委員会は、例えば倫理フォーラム、技術フォーラム、地域産学官と技術士との合同セミナーなどの技術士を対象とした行事の他、一般市民の自由な参加も可能な講習会、講演会を企画し、対外的な情報の発信を行うようになっていきます。このような能動的な活動は、北海道本部役員の地道な働きかけもさ

ることながら、従来から技術士の認知度が低すぎるという技術士自らの問題意識を元にして、技術士の知名度向上、地位向上を飛躍的に図りたいという技術士個々の強い要望があるためと推察されます。さらには東日本大震災を経験し、「技術士倫理要綱」の第1綱領に記載されている「公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮する。」を鑑みて、技術士の信頼度を高めたい、社会のお役に立ちたい、といった技術士自らの欲求がなせる結果であろうと思います。今日の北海道本部の成長は、統括本部のご指導はもちろんのこと各地域本部の皆様の協力、北海道本部の役員ならびに会員諸氏のボランティア精神と積極的な行動のたまものであります。この場を借りて深く感謝の意を表したいと存じます。

さて、人類の未来には多くの課題が山積しております。我々技術士として行うべきことは無数にあり、責務はますます重大になるであろうと思います。いま創立50周年を迎え、さらなる50年、100年に向けて、我々技術士は、従来にも増して絶えざる自己研鑽に努めるとともに技術者倫理を身につけ、困難な諸問題に対処して行かなければならないと思います。皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶と致します。